



# JA日本株式ファンド

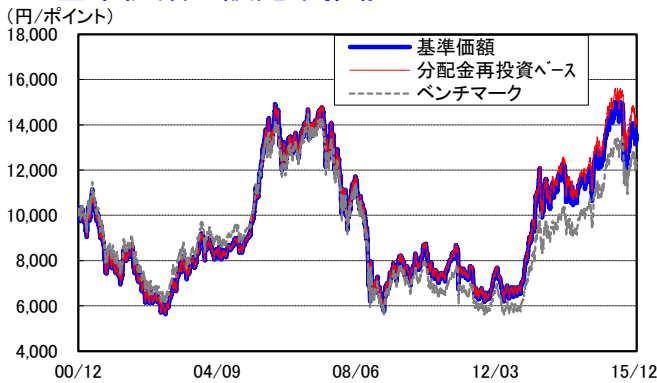
設定日:2000年12月22日 償還日:無期限 決算日:8月16日(休業日の場合は翌営業日)

追加型投信/国内/株式

## ●商品の特徴

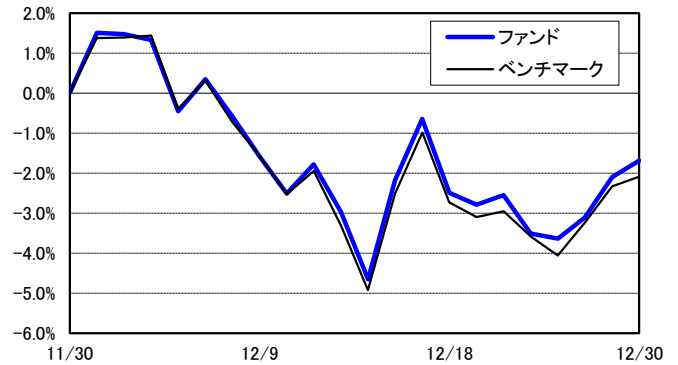
- 当ファンドは、JA日本株式マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄を中心に投資を行います。
- 運用にあたっては、ボトムアップアプローチによる個別銘柄選択により、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果を目指します。
- 株式の組入比率は原則として高位を保ちますので、基準価額は大きく変動することがあります。

## ●基準価額の設定来推移



- ※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
- ※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
- ※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## ●当月のパフォーマンス推移



## ●設定来の運用実績

	ファンド騰落率 (分配金再投資) (1) (%)	TOPIX 騰落率 (2) (%)	差異 (1)-(2) (%)
過去1ヵ月	-1.68	-2.09	0.40
過去3ヵ月	9.71	9.65	0.06
過去6ヵ月	-5.65	-5.10	-0.55
過去1年	9.37	9.93	-0.56
過去3年	81.41	79.96	1.45
設定日	43.11	22.72	20.39

- ※1 ファンド騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
- ※2 ファンド騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## ●基準価額と純資産総額

年月日	基準価額 (円)	TOPIX (ポイント)	純資産総額 (百万円)	マザーファンド 純資産総額 (百万円)
2015/12/30	13,560	1,547.30	563	24,222
2000/12/22 (設定日)	10,000	1,260.88	4	8,749

- ※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
- ※2 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。

## ●直近6期の分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2015/08/17	220
2014/08/18	180
2013/08/16	170
2012/08/16	0
2011/08/16	0
2010/08/16	0
設定来合計	660

※1万口当たりの実績です。

## ●信託財産の構成

ファンド	比率(%)
マザーファンド 受益証券	100.5
国内株式	-
株式先物・オプション	-
短期資産等	-0.5
合計	100.0

- ※1 比率は純資産総額対比です。
- ※2 短期資産等には、コール・ローン、CP、CD、未収金、未払金等が含まれます。

マザーファンド	比率(%)
国内株式現物	99.7
東証1部	98.2
東証2部	1.5
ジャスダック	-
その他	-
国内株式先物	-
短期資産等	0.3
合計	100.0

- ※1 比率は純資産総額対比です。
- ※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

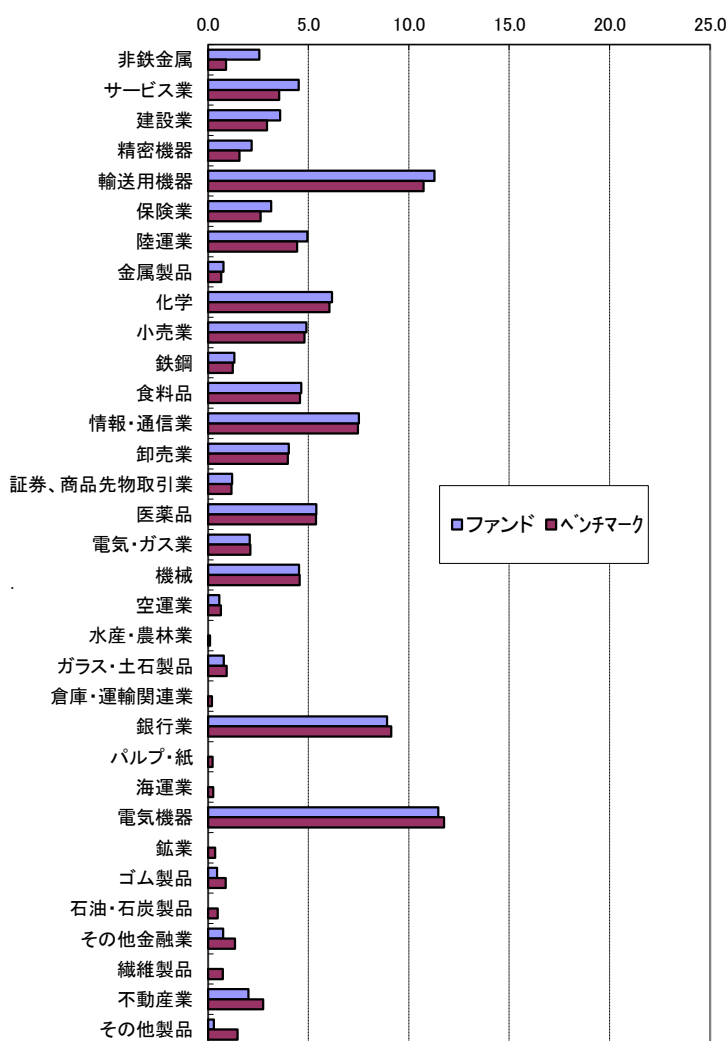
# JA日本株式ファンド

追加型投信/国内/株式

## <マザーファンドの運用状況>

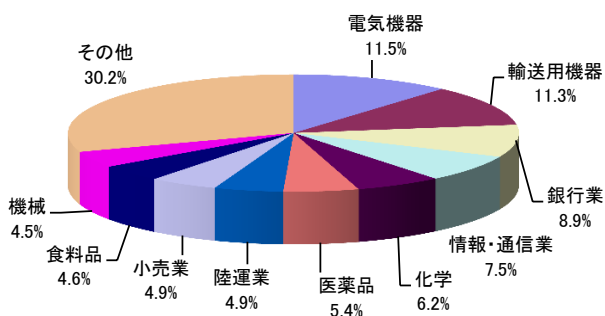
### ●業種別組入比率 (%)

業種	ファンド	ベンチマーク	差
非鉄金属	2.6	0.9	1.7
サービス業	4.5	3.5	1.0
建設業	3.6	2.9	0.7
精密機器	2.2	1.6	0.6
輸送用機器	11.3	10.7	0.5
保険業	3.1	2.6	0.5
陸運業	4.9	4.4	0.5
金属製品	0.8	0.7	0.1
化学	6.2	6.1	0.1
小売業	4.9	4.8	0.1
鉄鋼	1.3	1.2	0.1
食料品	4.6	4.6	0.1
情報・通信業	7.5	7.5	0.1
卸売業	4.0	4.0	0.0
証券、商品先物取引業	1.2	1.2	0.0
医薬品	5.4	5.4	0.0
電気・ガス業	2.1	2.1	0.0
機械	4.5	4.6	0.0
空運業	0.6	0.7	-0.1
水産・農林業	0.0	0.1	-0.1
ガラス・土石製品	0.8	0.9	-0.1
倉庫・運輸関連業	0.0	0.2	-0.2
銀行業	8.9	9.1	-0.2
パルプ・紙	0.0	0.2	-0.2
海運業	0.0	0.3	-0.3
電気機器	11.5	11.8	-0.3
鉱業	0.0	0.4	-0.4
ゴム製品	0.4	0.9	-0.4
石油・石炭製品	0.0	0.5	-0.5
その他金融業	0.8	1.3	-0.6
繊維製品	0.0	0.7	-0.7
不動産業	2.0	2.7	-0.7
その他製品	0.3	1.5	-1.2
合計	100.0	100.0	-

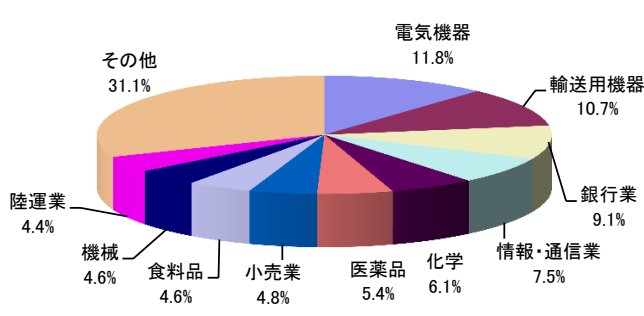


※1 業種分類は東証33分類に基づいています。  
 ※2 比率は国内株式現物対比です。

### ●ファンドの組入業種上位(10業種)



### ●ベンチマークの組入業種上位(10業種)



## JA日本株式ファンド

追加型投信/国内/株式

## &lt;マザーファンドの運用状況&gt;

## ●組入上位15銘柄

順位	銘柄	業種	組入比率(%)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.8
2	トヨタ自動車	輸送用機器	4.3
3	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.4
4	日本電信電話	情報・通信業	2.6
5	東日本旅客鉄道	陸運業	2.4
6	キーエンス	電気機器	2.3
7	小野薬品工業	医薬品	2.1
8	日本たばこ産業	食料品	2.0
9	アルプス電気	電気機器	1.9
10	ソニー	電気機器	1.9
11	第一生命保険	保険業	1.8
12	セブン&アイ・ホールディングス	小売業	1.7
13	東海旅客鉄道	陸運業	1.7
14	本田技研工業	輸送用機器	1.6
15	総合警備保障	サービス業	1.6

※ 比率は国内株式現物対比です。

組入銘柄総数: 93銘柄

## ●主な売買銘柄

※平均単価=金額÷株数

	買付				売付			
	銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
1	スクウェア・エニックス・ホールディングス	122,000	364,234	2,986	KDDI	93,200	282,851	3,035
2	みずほフィナンシャルグループ	1,178,500	292,961	249	三井住友トラスト・ホールディングス	571,000	262,973	461
3	ジェイ エフ イー ホールディングス	127,600	243,810	1,911	明治ホールディングス	23,300	225,394	9,674
4	第一生命保険	110,100	225,214	2,046	三井住友フィナンシャルグループ	45,800	219,276	4,788
5	カシオ計算機	69,200	191,738	2,771	東レ	175,000	194,180	1,110
6	三菱UFJリース	289,700	184,138	636	オリックス	104,800	183,991	1,756
7	三菱UFJフィナンシャル・グループ	231,200	179,964	778	MS&ADインシュアランスグループホール	53,100	183,053	3,447
8	日本電信電話	38,700	179,324	4,634	キヤノン	45,200	170,097	3,763
9	象印マホービン	81,100	139,672	1,722	ソフトバンクグループ	24,400	154,870	6,347
10	SCSK	23,900	114,665	4,798	パナソニック	110,900	141,538	1,276
11	日本たばこ産業	26,000	113,078	4,349	日本電産	15,500	135,278	8,728
12	日本新薬	21,000	101,700	4,843	住友電気工業	76,900	130,178	1,693
13	アリアケジャパン	13,300	86,804	6,527	ANAホールディングス	339,000	118,143	349
14	麒麟ホールディングス	45,300	78,219	1,727	沢井製薬	13,200	98,248	7,443
15	アルプス電気	21,600	76,106	3,523	オービック	14,700	97,825	6,655



## JA日本株式ファンド

追加型投信/国内/株式

## &lt;運用担当者のコメント&gt;

## ●12月の市場動向と運用状況

## (市場動向)

12月のTOPIXは、前月比2.09%のマイナスとなりました。月前半は、欧州中央銀行(ECB)が発表した追加金融緩和策が市場参加者の期待を下回る内容であったことや、原油価格下落や円高進行などから、TOPIXは下落しました。月後半は、米国の連邦公開市場委員会(FOMC)において利上げが決定され、今後の利上げについても緩やかなものとなることが示されたことから、米金融政策の先行き不透明感が後退し、TOPIXは上昇する局面もありました。しかしながら、世界景気の先行き懸念は払拭されない中、日銀が発表した「量的・質的金融緩和」の補完措置が失望感を誘う内容であったことや、一段の円高進行などを受け、TOPIXは弱含む展開となり、月末のTOPIXは1,547.30ポイントとなりました。

業種では、業績改善予想の発表が相次いだ水産品冷食会社である日本水産の株価上昇等を受けて水産・農林業が値上がり率1位となり、以下、空運業、食料品、医薬品、陸運業と続きました。一方、その他製品が値下がり率1位となり、以下、パルプ・紙、証券・商品先物取引、金属製品、ゴム製品と続きました。

## (運用状況)

マザーファンドでは、月末の株式組入比率は99.7%と概ねフルインベストメントを継続しました。今月のパフォーマンスは、TOPIXの騰落率▲2.09%に対して、当ファンドの騰落率は▲1.68%となり、0.4%アウトパフォームしました。

銘柄選択効果としては、電機機器のアルプス電気や日本電産をオーバーウェイトとしたことがマイナスに寄与するも、医薬品の小野薬品工業や建設業の大成建設をオーバーウェイトしたことがプラス寄与したことで、全体としてプラスに寄与しました。

業種配分効果としては、非鉄金属のオーバーウェイトがマイナスに寄与するも、その他製品のアンダーウェイト、空運業のオーバーウェイトがプラスに寄与しました。

## ●今後の市場見通しと運用方針

## (市場見通し)

日本に関しては、外需は回復傾向にあり、生産・投資動向については持ち直しの動きとなっています。国内需要については、消費者心理が新興国の減速懸念等からやや鈍化基調にあり、消費の力強さに欠ける状態です。日本経済は回復基調にあるものの足許でややもたつきが見られます。

物価については、日銀は物価見通しを引き下げており、緩和的な金融政策の継続を見込みますが、追加金融緩和実施の場合、効果については不透明な状況です。

米国に関しては、企業部門の景況感はやや鈍化していますが、企業の生産・投資は鈍化基調から足許でやや持ち直しの動きが見られます。消費者心理は改善基調ながらも足許ではもたついた動き、個人消費は力強さに欠けるものの底堅い推移となっており、住宅関連指標も回復基調にあります。雇用は緩やかな回復軌道にあり、米国経済は、企業セクターの生産投資活動の鈍化に留意が必要なもの、総じて緩やかな回復基調が続いていると考えられます。

物価については、財価格に下押し圧力が生じていますが、サービス価格は上昇基調にあり、総じて緩やかながら上昇基調となっています。こうしたなか、追加利上げは物価動向、景気回復の勢いに十分留意しながら徐々に進めていくものになると考えられます。

欧州経済に関しては、原油安・ユーロ安を背景にドイツを中心に市場心理の改善傾向が見られますが、ドイツは受注統計が悪化の動きとなっています。欧州主要国の消費には改善の兆しが見られる一方、周辺国の失業率は高止まりするなど、各国での景気動向にばらつきがありますが、総じて持ち直し傾向にあります。

物価については、マイナス圏から持ち直しの基調となつてはいるものの低水準であることから、欧州中央銀行(ECB)による追加金融緩和策を含む緩和的な金融政策の継続を見込みます。

新興国に関しては、中国経済については、不動産価格には一部底打ちの兆しが見られるものの、消費・投資や生産活動等経済全般において成長スピードが減速し続けています。景気減速や不安定な株式市場を受け、利下げや人民元の切り下げ等、景気下支えの政策が実施されています。

新興国全体では金融政策や物価動向について、国ごとに二極化しています。急速な原油価格下落に伴う資源国の景気減速が懸念される一方、エネルギー価格の下落による物価上昇の鈍化から政策発動余地が生じ、利下げに転じる国がみられ、これらの金融緩和は一定程度の景気下支えになるものと考えられます。

足許では日本株は日銀の金融緩和政策に関する補完措置や欧州中央銀行(ECB)の追加金融緩和が市場の期待以下の内容となったことや、為替の円高基調での推移を受け下落しています。経済の基礎的要因に一部もたつきは見られるものの回復基調にあることや、日銀のETF買い入れによる需給面の下支えなどから、緩やかな上昇を見込んでいます。

## (運用方針)

以上を前提に、業種配分方針としては現段階では業種リスクを極力控えております。今後につきましては、各国金融政策の動向、グローバル景気の見通し、為替変動による企業収益影響などを慎重に見極め、個別銘柄選択を重視したポートフォリオを構築していきます。

※運用担当者のコメントは12月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

## ○お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の基準価額に1.62% (税抜1.50%) 以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
  
- 信託設定日 2000年12月22日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して年1.296% (税抜1.20%)
- 決算日 毎年8月16日 (休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 原則として実質的な利子・配当収益に相当する収益を中心に、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。分配金再投資 (累積投資) 専用ファンドですので、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。
  
- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の基準価額に0.30%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して4営業日目から支払いを行います。
  
- 税金
  - <個人のお客様の場合>
    - ・収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
    - ・換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
  - <法人のお客様の場合>
    - ・収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。

※ 税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

## ○委託会社、その他の関係法人

- ◆委託会社: 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社 (金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第372号 一般社団法人 投資信託協会会員 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)  
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- ◆受託会社: 三菱UFJ信託銀行株式会社 (再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)  
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- ◆販売会社: 以下をご覧ください。  
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の先までお問い合わせください。

- ◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
- ホームページ: <http://www.ja-asset.co.jp>
- フリーダイヤル: 0120-439-244 (受付時間: 営業日の午前9時～午後5時)

お申込、投資信託説明書 (交付目論見書) のご提供は

## ○主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

## ＜当ファンドに係るリスクについて＞

当ファンドは、主にわが国の株式を実質的な投資対象としますので、国内株式の下落による組入株式の価格の下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」です。「株価変動リスク」にかかる指標は、東証株価指数(TOPIX)です。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

## ＜当ファンドに係る手数料等について＞

◆申込手数料(1口当たり)・・・申込時にご負担いただくものです。  
お申込日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。  
※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

◆換金(解約)手数料・・・換金時にご負担いただくものではありません。

◆信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。  
ファンドの純資産総額に年1.296%(税抜年1.20%)の率を乗じて得た額とします。

◆信託財産留保額(1口当り)・・・換金時にご負担いただくものです。  
換金申込受付日の基準価額に0.30%の率を乗じて得た額とします。

◆監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。  
ファンドの純資産総額に年0.00324%(税抜年0.003%)の率を乗じて得た額とします。

◆その他の費用(\*)  
有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借入れを行った場合の借入金利  
※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「費用と税金」をご覧ください。

(\*)「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。  
当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## ○留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- 東証株価指数(TOPIX)に関する著作権、知的財産、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。